

# 【外国語・中1・Program7 Research on Australia】①

## 育成を目指す資質・能力

オーストラリアと日本の文化の違いについて理解した上で、自分たちの住む国や地域の良さについて、オーストラリアの生徒に紹介することができる。

## ICT活用のポイント

文化の違いを理解しやすくする資料提示と自分の考えを整理するための思考ツールの活用。また英語表現の質の向上 等。

## 事例の概要

### 【つかむ】

オーストラリアの生徒からの手紙を読み、日本文化の紹介文を書くことを知る。教師のモデル文を見て、単元の見通しをもち、既習表現を使って紹介文を書く。  
＜試しの活動＞

### 【追究する】

教科書の内容を理解し、オーストラリアの自然や文化について知る。さらに紹介する日本文化について情報を収集する。

### 【まとめる】

これまでに学習した内容や得た情報を整理し日本文化の紹介文を書く。試しの活動で書いた自分の紹介文と比較し単元全体の振り返りを行う。

### 【事例におけるICT活用の場面①】

- ICT端末を活用して、オーストラリアの生徒からの手紙を全体で共有・理解し必要感を高めるとともに、活動の「目的・場面・状況」を明確につかむ。
- 教師が書いた日本文化の紹介文を見て、単元の見通しやゴールを確かめる。

### 【事例におけるICT活用の場面②】

- 自分が紹介したい日本や沼田市の情報(写真等)を自分のファイルに蓄積する。
- 自分の紹介文をイメージしながら、思考ツールにキーワードを入力する。

### 【事例におけるICT活用の場面③】

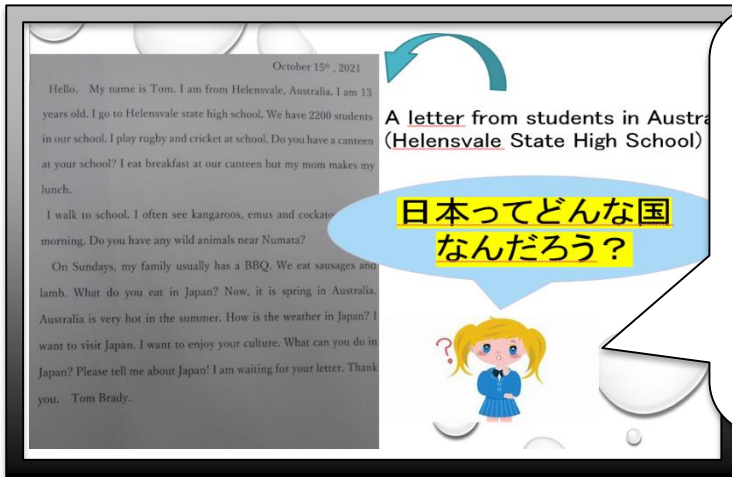
- 思考ツールに蓄積した情報(キーワード)や写真を活用して、グループで日本文化を紹介し合う。＜話す活動＞

### 【事例におけるICT活用の場面④】

- 自分の紹介文と友達の書いた紹介文を比較したり参考にしたりしながら、再度自分の紹介文を練り上げ完成させる。＜書く活動＞

# 【外国語・中1・Program7 Research on Australia】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



活動にリアルな必要感をもたせたり、単元のゴールを確認したりすることができる。

○市のオーストラリアとの国際交流の様子等を全体画面で提示しながら導入することで、さらに単元の課題をつかみやすくすることができていた。

## 【事例におけるICT活用の場面③】

○入力したキーワードをもとに、集めた写真等を提示しながらグループで紹介し合った。さらにそれを書く活動につなげることで技能統合の授業となっていた。

【話す→書く】



友達の紹介を聞いて、意見を言ったり、自分の紹介の質を高めたりすることができた。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



○学習支援ソフトの思考ツールに紹介したいもののキーワードを入力し集めた情報を整理しながら、紹介文のイメージをもたせることができていた。

自分が「紹介したい」と思う情報を収集していくため、意欲的に取り組むことができる。

## 【事例におけるICT活用の場面④】

○紹介文を作成する場面では、生徒がワークシートを撮影した写真を学習支援ソフトに提出させ、よりよい表現や正しい表記について、全体で確認しながら行うことで、完成度(正確性)を高めることができた。



友達の紹介文と比較することで、わかりやすい紹介文にさらに練り上げることができた。

【活用したソフトや機能】・学習支援ソフト（データ提出・受信、一覧表示、画像編集等）・ウェブブラウザ（情報収集）